

# 麻布幼稚園だより 9月号

平成28年9月1日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

## 「 強い気持ち・感謝する心 」

園長 大島 美知代

今日から2学期が始まりました。夏休みはお子さんと一緒に楽しい体験ができたでしょうか。家族で夏休みならではの楽しい経験ができましたか。

この夏休みにもたくさんのニュースがありました。台風が来たり、雷が鳴ったり、毎日セミが鳴き、強い日差しが照りつけ、猛暑となったり等、自然の猛威を感じました。日本の季節が変わってきたように思います。

この夏休みは何といっても4年に1度、ブラジルでの「オリンピック」です。このニュースで知る日本人の活躍に一喜一憂されたことと思います。私も同じで「オリンピック」の映像を見て、ワクワクしたり、涙したり、応援したりしていました。メダルを取れた選手、残念ながら取れなかった選手、どちらにも大きな拍手を送りたいと思います。メダルを取った選手のインタビューの中で気付いたことがあります。インタビューされる選手はメダルを首にかけて涙を拭きながら「今までこんなに練習してきたのだから、と、思って、『強い気持ち』で戦いました。～ 今まで応援し、支えてくださった方に『感謝の気持ち』を伝えたいです。ありがとうございます！」という言葉だったのです。

『強い気持ち』ってどんな気持ちなのでしょう。どうやったら『強い気持ち』をもって普段通り行動できるのでしょうか。どんなことに心掛けできたら『強い気持ち』をもつことができるのでしょうか。新聞記事をちょっと引用しますと、ある競技の試合後のインタビューで『「心が折れそうになった。正直、もうだめかな」と思った。「でも今までこんなにたくさん練習してきたのだから、思い切ってやろうと思った。」』と書かれています。ここで気持ちが切り替わり、この選手は勝利して金メダルを取るようになりました。

また、選手がみな「支えてくれた方に感謝の気持ちを伝えたい、ここまで支えてくれたコーチ（監督）や家族にこのメダルを掛けてあげたい」と言っています。ここにたどり着くまでには並々ならぬ練習、努力があったのだと思います。「自分一人の力でここまで来れたのではない。今ここに立っているのは支えてくれたコーチや家族の応援、支えがあったから」という思いが選手から語られています。

そして、新聞報道でも有名な女子シンクロヘッドコーチの「地獄」の練習の話題です。1日10時間は当たり前前の練習、水中だけに限らず筋力トレーニング、浮力のために食事の関しても徹底した管理を行ったそうです。ヘッドコーチは、中国から日本に戻ったら「選手たちに甘えが見られ、闘争心も表わさない『ゆるきゃら』のようだと思った」と言っています。選手の中にはシンクロの代表を辞退したり、追加で呼ばれた選手も代表を断ったりするような過酷な環境があり、それを乗り越えてきた選手たちは「逃げたくなる時もあったが、五輪でメダルを取りたいという初心を思い出して頑張ってきた」と言っています。

私の勝手なイメージでは、日本の選手は1度負けてしまうとその後は力が出ないようと思っていました。それは全く勝手なイメージでした。リレーやダブルス、いわゆる「団体」となると力を発揮する競技がたくさんありましたね。水泳も体操、陸上競技のリレー、卓球やバドミントン、シンクロも力を合わせて一つになり、大きな力を発揮していました。思わず「やったね!!」と叫びたくなる結果でした。これは『チーム力』の勝利です。

これからを生き、日本の未来を拓く幼児たちに、「生きる力の基礎」を育てる幼児期に我々大人は何をすべきなのか。『強い気持ち』をもち、自分のやりたい目的を見つけ、それに向かって「あきらめずに取り組める人、一人でもがんだり、人とも協働できる人、達成感をもち、『感謝する心』をもてる人に育ってほしいと思います。「日本人ってすごいね」と思ってもらいたい、と強く感じた夏休みでした。